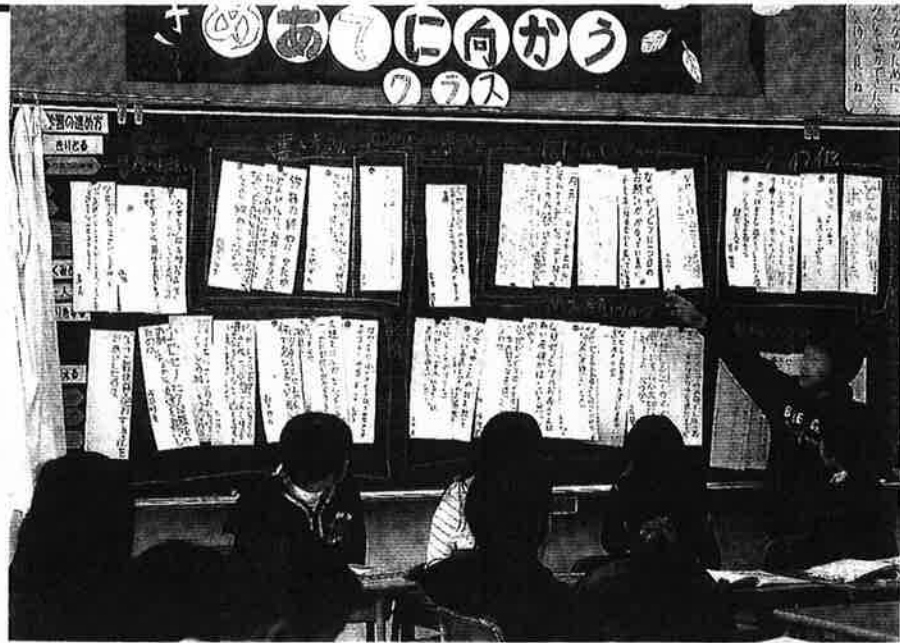


変わる まなびや

教育2014

2



4年生の国語の授業。司会と板書の担当者がみんなの意見を分類してまとめた。横濱市神奈川区の白幡小学校

「司会力」型を破った先に

「同じような意見が続きました。別の意見がある人はいませんか」

横濱市神奈川区の白幡小学校4年2組。司会の男児が投げかけた。議論が停滞し始めたタイミング。「授業の流れ全体を考えながら、上手に司会ができました」と担任の玉置哲也教師(30)が声をかける。

自分たちの授業は自分たちで作る。子どもがそんな意欲を持てるよう、すべての授業で児童が司会をする白幡小。だれでも取り組めるのは、教師が用意した「型」があるからだ。男児が言った言葉も、意見を聞き出すフレーズとして挙げられている。

「型」は低学年、中学年、高学年ごとに2種類ある。一つ目の「学習進行表」は、「これから○○の勉強を始めます」というあいさつから「振り返りを書いてください。時間は○分です」まで、45分の授業の流れに沿ったせりふをまとめた。○○の部分を選

めれば、進行をこなせる。もう一つの「司会のことば」は、似ている意見を求める、感想を求める、意見をまとめる、といった状況に応じた表現を例示した。

2009年に「司会」を導入した当初、2人いる日直が1日の全ての授業の司会を担当した。だが、教科ごとに学習内容は継続しているのに、司会が日替わりではやりづらく、教科ごとの係に変更。「型」は導入当初から用意し、教師で何度も話し合っってバージョンアップしてきた。

「一度も司会をしたことがない1年生でも、安心して授業を進められる工夫です」と授業研究を担当する渡辺誠教諭(39)は言う。渡辺教諭自身、2年前に白幡小に赴任した当初、子どもが司会をすることで意欲や思考力がつくの、半信半疑だった。

効果が実感できたのは3カ月たったころ。「進行表」にはない言葉を使い、自分たちなりにまとめよう、もっとわかりやすくしよう、工夫する子どもの姿を見てからだ。「司会をしながら、子どもたちがものすごく思考を働かせているのに気付いた」

「新聞の読み方」「調査報告文の書き方」などの様々な「型」を、児童に教える。子ども自身が作り出すこともある。6年生は昨年、結論を導き出すための「協議」と、様々な意見を出し合う「討論」で、司会の進行の仕方が異なることを児童自ら話し合った。そして「協議」と「討論」それぞれの「司会進行表」を作り上げた。

子どもたちはこうした型を6年間、ファイナルし、必要な時に取り出して活用する。「児童会の話し合いに応用したら、意見をまとめるのが以前より早くなりました」と6年生の望月裕太君(12)は言う。

鶴岡帯刀君(12)は「司会のおかげで意見を言うのが楽しくなった」と振り返る。低学年の頃は、授業中に手を挙げるのが恥ずかしかったが、司会の友達が自分を指してくれ、発表した意見が採用されて自信が持てたのだという。

ただ、司会が苦手な子どもももちろんいる。「引っ込み思案の子や、話すのが不得手な子が、どうすれば、進行表を手放して、自分の言葉で司会ができるようになるか、今後の課題です」と渡辺教諭は話す。

Learning Skill
白幡小学校の学習スキル

大しかりのことば(低学年)

1 時間をはかろう。
① 日の中に、時間(区間)をつかえ。
② 日の中に、時間(区間)をつかえ。時間(区間)は必ず守ろう。

2 みんなの考えを聴こう。
① 話し合いの目的は何か? → 話し合いの目的を明確にし、話し合いの時間を決めよう。
② 話し合いの目的は何か? → 話し合いの目的を明確にし、話し合いの時間を決めよう。

3 時間をはかろう。
① 話し合いの目的は何か? → 話し合いの目的を明確にし、話し合いの時間を決めよう。
② 話し合いの目的は何か? → 話し合いの目的を明確にし、話し合いの時間を決めよう。

低学年用の「司会のことば」

学習進行表

授業の進行を管理するためのツール。授業の進行を管理するためのツール。授業の進行を管理するためのツール。

高学年用の学習進行表

「気持ちを表す語彙集」

(星井麻紀)